

たこかし

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

全力で頑張るおもしろさ ～挑戦し続ける心～

校長 本橋 忠旗

木々の新緑が目にまぶしい季節となりました。早いもので、新学期が始まって1か月が経とうとしています。最初は、不安そうだった1年生の登校の姿も、「校長先生 おはようございます！」と力強い声に変わっていました。

さて、「コロナ禍」と呼ばれる学校生活も徐々に変化し、現在では、個人の判断を尊重しつつ、基本マスク着用をなしとしています。これまでの3年間を振り返れば、「歌う」「集う」「全力で体を動かす」といった、小学校では当たり前だった活動がずいぶんと制限されてきました。

今から40年ほど前、体育の授業研究を進めた研究者に高田典衛（1915-1993）という人物がいます。高田氏は、多くの体育の授業観察を行う中で、子供たちの授業満足度が高いとされた授業に共通する4つのポイントを見出しました。その内容は、

- ① 力一杯動けた授業
- ② 仲間とともにできた授業
- ③ 新しい発見や解かる楽しさがある授業
- ④ 技や力が伸びたと感じる授業

というものでした。この4つのポイントは、「高田4原則」と呼ばれ、体育の授業にかかわらず、授業づくりの柱として他の教科学習においても参考にされました。この4つのポイントを知ったとき、コロナ禍における学習活動は、マスクの着用と会話の制限、近距離での接触の制限等、授業の大切な要素にずいぶんと影響を与えていたことが分かります。

高四小では、今月5月24日・27日に運動会が行われます。暑さ対策のため、2日間に分けての開催となります。久しぶりに仲間とともに全力で取り組むことができる活動が戻ってきます。これを機に、「力いっぱい動く楽しさ」「仲間と共に競い合ったり、新しいことができたりする楽しさ」といった経験を積んでほしいと思っています。

今年の教育活動のキーワードは「思いやりの心」と「挑戦し続ける心」です。「20歳のときまでに知っておきたかったこと」という書籍の中に、「失敗こそ強さの秘密」「一度も挫折をしたことのない人をみると、経験から何かを学べたのだろうかと不思議に思う」という表現があります。本書は、ビジネス書の要素が強い本ですが、「幸運とは、小さな選択やささいな行動の積み重ねで、毎日少しづつ向上した結果、長期的に成功する確率が上がったということだ」という表現もあります。こう考えると、挑戦と努力は自分の人生を幸せにしていく一つの道筋のように思えてきました。

運動会では、順位や勝ち負けを経験したり、新たな動きを覚えて発表したりします。新たなことに挑戦し、自分を成長させていってほしいと思う5月の始まりです。